

待降節第2主日 2016.12.4

## 差し迫った神の怒り

マタイ3章1-12節

そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。これは預言者イザヤによってこう言われている人である。

「荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」

ヨハネは、らくだの毛衣（けごろも）を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言うておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

### 説教

#### 1. イエスでも先駆者が必要だった？

洗礼者ヨハネは最後の預言者と伝えられています。イエスはある時、聖書は

わたしを証しする書だといいました。ここでイエスがさす聖書とは旧約聖書です。このイエス発言に対してヨハネは新約聖書上でイエスを預言した、ともいえます。しかしイエスに必要だったのは預言者というより、同時代の信仰の先駆者だったのではないのでしょうか。当時のユダヤ教を改革を叫ぶ人はヨハネ以外にも多くいたかもしれません。荒野で修行していたのは洗礼者ヨハネだけではないでしょう。数多くの宗教改革者がいたとすれば、なぜヨハネが選ばれ新約聖書に名を残すことになったのでしょうか。

## 2. ヨハネはユニークだった。

ヨハネは聖書に洗礼者ヨハネ（バプテスマのヨハネ）と記されています。聖書には同じ名前の人物がでてくるので区別するためにあだ名をつけることもあります。彼のユニークな一面をあらわした名といえます。それは彼が「洗礼(バプテスマ)」といういままでのユダヤ教にはなかった新しい儀礼をもちいて宗教活動をしていた点です。

**エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。(3:5-6)**

きょうの聖書箇所が続いて13節以下にイエスがヨハネから洗礼を受けたことが記されます。イエスもまたヨハネから洗礼を受けたユダヤ人の一人でした。

## 3. 洗礼という形式。

イエスがこの世で成し遂げたことは「十字架と復活」に尽きます。それを成し遂げるためにイエスは地上の生涯を駆け抜けたといえます。金曜日に十字架につけられ、日曜日の朝に復活した。この三日間のためにイエスは人となり苦しみを受けました。「十字架と復活」に焦点を当ててみると「イエスの洗礼」の意味が浮かび上がります。イエスはヨハネのユダヤ教改革運動の火

を自分の活動のために必要としたのではないか。たとえていえば、導火線につける火としてヨハネの洗礼によるユダヤ教改革運動を使った、洗礼はそのための手段としてあったのではないだろうか。つまり、洗礼を受けることによってユダヤ教改革運動の同意者、賛成者であると公に表明するあかしになったということです。

**わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。**

**(3:11)**

イエスは罪の赦しを病人、未亡人、貧しい人など多くの人に与えたことが聖書に記されています。しかし聖書の記述の中にイエスが洗礼を施したエピソードはひとつもありません。ヨハネはイエスは自分の水による洗礼ではない方法「聖霊と火」で洗礼をすると証言します。でもイエスは誰にも洗礼をしませんでした。「聖霊と火」の洗礼とはヨハネが証言しているだけで実際には行われません。洗礼は聖書によれば洗礼者ヨハネが始めたものです。この洗礼儀礼はイエスの昇天後、キリスト教入信儀礼として教会が採用したという歴史的な経緯があります。

4. さいごに。

**ヨハネは、ファリサイ派やサドカイ派の人々が大勢、洗礼を受けに来たのを見て、こう言った。「腹の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。」(3:7)**

終末の神の怒りは“免れることが不可能である”と、洗礼者ヨハネは説教しています。

私たちはイエスの露払いでもある洗礼者ヨハネの説教を聞きながら、キリストの十字架こそがまさに神の怒りそのものであったことを知ります。

そしてキリスト教信仰は洗礼を受けた、受けていないという「かたち」のはなしではなく、イエスの十字架と復活を信じることだった、とあたためて気

づくのです。

-----

## 使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。聖なる共同の公会、† 聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

## 共同祈願

キリストに従う心を新たに祈りましょう。

- ・愛をもってわたしたちを導いてくださるみ子キリストにいつも心に向け、信頼と希望のうちに生きることができるよう。
- ・すべての人が尊厳を守られ、喜びのうちに生きられるよう、一人ひとりが自分の役割に気づき、力を注いでいくことができますように。
- ・抑圧や苦難のうちにある人々を顧みてください。あなたのことばからなぐさめと忍耐の力を受け、希望のうちに歩めますように。
- ・（いまあなたに必要な祈りがあれば追加して祈りましょう）

恵み豊かな神よ、あなたはすべての人を顧み、救いの道へと招いておられます。わたしたちが日々、救い主キリストを力強く告げ知らせることができるよう。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン